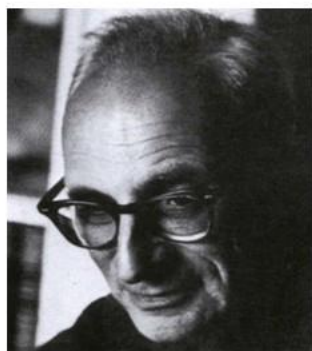


いぶき7号 平成23年8月号

世界の偉人たち「驚きの日本発見記」

第6回：レヴィ・ストロース（1908～2009年）



民俗学者、文化人類学者として私が非常にすばらしく思うのは、日本が、最も近代的な面においても、最も遠い過去との絆を維持し続けていることができるということです。私たち（西欧人）も自分たちの根があることは知っているのですが、それを取り戻すのが大変難しいのです。もはや乗り越えることのできない溝があるのです。その溝を隔てて失った根を眺めているのです。だが、日本には、一種の連続性というか絆があり、それは、おそらく、永遠ではないとしても、今なお存続しているのです。（出典「見出された『日本』ロチからレヴィ＝ストロースまで」平凡社）

西洋の芸術や文学にはギリシャ・ローマ神話が欠かせないように、現在の西洋文明はギリシャ・ローマ文明の大きな恩恵を蒙っています。しかし、ギリシャのアクロポリスなどは廃墟であり、過去の神々や文明とは絶たれて、今では神々の墓標となっています。対して日本は、太古からの伊勢神宮を始めとする様々な神宮神社が、様々な役割を担って、今なお栄えて、日本の地域を守り続けているのです。すなわち、「過去との絆を維持し続けている」のです。神話世界が一つのストーリーとして歴史へ展開し、現在へとスムーズに移行している希有な国、つまり「神話時代から続く国」、それが日本です。